

「福島浜通り地域の国際教育研究拠点に関する有識者会議」 論点（案）

1 国際教育研究拠点の目的・機能をどう考えるか

- (1) 国内外から結集する研究者や技術者等の人材育成・確保により、産学官連携を進め、魅力ある浜通り地域を創出すること。
- (2) 廃炉・ロボット・エネルギー・農林水産業等の多分野にわたる研究による相乗効果、知の融合を図り、新産業を創出すること。
- (3) 福島復興関係研究の集積・深化を図り、世界への情報発信・貢献を進めること。
- (4) 定住人口の拡大（特に若い世代）を図ること。

2 国際教育研究拠点の形態をどう考えるか

(例)

- ① 研究機関パターン
 - ・ 国際レベルの研究機能
 - ・ 全国・全世界の研究機関のブランチとしての複数の研究室が集積する共同研究機能
 - ・ 人材育成機能
- ② 大学院、大学パターン

3 国際教育研究拠点の運営をどう考えるか

(例)

- ① ガバナンスの確保
- ② トップ人材（ディレクター）の選定・確保

4 産学官連携の仕組みをどのように構築するか

(例)

- ① 福島ロボットテストフィールド等の活用
- ② 民間との共同研究の促進

5 研究分野をどう考えるか

(例)

- ① 福島イノベーション・コースト構想重点分野
(廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産業)
- ② 環境
- ③ 医療・健康
- ④ 災害・防災

6 研究者、大学院生等の人材を浜通り地域に集めるための研究環境、 生活環境をどう考えるか

(例)

- ① 福島第一原発等へのアクセス権
- ② 最先端技術を活用するための規制緩和
- ③ 研究者の処遇（任期・給与）
- ④ 研究者としてのステイタス（国家プロジェクトとしての位置付け、研究費等）
- ⑤ 家族の生活環境
- ⑥ 大学院生等に対しても魅力的な研究環境の整備